# サンプルプロットの分析とルール設定。

・タイトル

・テーマ：物語のジャンル、大枠、物語の個性

・主要キャラクター：基本情報と個性、物語で果たす役割

・舞台設定と時期：場所と季節、文化的な背景

・用語：作中の固有名詞とその説明、世界のルール

・章立て：プロット本体＋括弧で内容を分ける。

### タイトル：未定（固有名詞がいいかも）

### テーマ：

テーマ：心の弱さとそれとの戦い。

題材：悪魔の腕輪と未熟な心をもった子供の戦い。

物語のジャンル：サイコアドベンチャー

大枠：心に弱さを抱えていたある兄弟の弟が自分自身の心を成長させながら、また、兄や博士の力を借りながら、悪魔の腕輪（悪魔じゃなくて自殺した子供が念を込めた腕輪というのもあり？）と戦う話。

物語の個性：物理的な力ではなく精神的な力で悪魔と戦う。

### 主要キャラクター

ガク

基本情報と個性：テツとガクの兄弟の弟の方。本作の主人公。自分が何か

周りからいじめられたりからかわれたりする。兄のテツのことが大好き。

悪魔はどのような「間違い」を提起する存在か、具現する存在か。

それをガクたちはどのようにはねのけるか。戦うか。

ハカセが金庫に入れていた腕輪を弟が取ったとするのではなく、弟がたまたま拾ってしまった。

セリフ集

「なんでそんなこと言うの、お兄ちゃん？僕、この腕輪をつけるようになってからクラスの誰からもいじめられなくなったし、なんだか皆最近は僕のいうことを聞くようになってきたんだよ。」

心の中から声が聞こえてくる。とても優しく僕を慰めるように、“そいつはお兄ちゃんだけど、殴っていいよ。ガクが強くなったのが妬ましいだけだから。今のガクなら負けやしないよ。”

舞台設定と時期（場所と季節、文化的な背景）

あくまで日本。日本の架空の村。小学校、中学校がそれぞれ１つずつあるくらいの海に面した村。時代は2000年代くらい。季節は話にはあまり関係してこないが5月頃。ハカセは心の研究を独自にかなり進めている。この村は昔、差別を受けていた人たちが多く住んでいた。今は、そういった差別を受けていた人たちのほとんどは村を離れている。ハカセはこの村出身。村の神社のわきにある祠にはかつて事故で死んだとされている子どもが祀られている。

ハカセはその子どもと50年以上前に関わっている。（ハカセはその子と親友だった）

（ハカセはその子を助けられなかったことや、実は自分が彼を殺してしまったようなものではないのかと思い続けている）

（テツとガクがあまり出てこないかも）

神社の神主さんが実は関わっている、